筑後市庁舎建設基本・実施設計業務プロポーザル評価要項

1 評価要項の位置付け

筑後市庁舎建設基本・実施設計業務プロポーザル評価要項（以下「本評価要項」という。）は、本プロポーザルにおける審査の評価方法について記載したものであり、筑後市庁舎建設基本・実施設計業務プロポーザル審査委員（以下「審査委員会」という。）において、本評価要項に基づき評価を行い、業務を委託する受託候補者及び次点受託候補者を選定するものである。

2 評価方法及び受託者の選考

- (1) 客観評価、業務提案評価及び価格評価を行い、受託候補者を選考する。
- (2) 客観評価及び価格評価は、事務局が技術者資料及び参考見積書を基に本プロポーザルに参加できる者（以下「参加者」という。）の審査を行う。
- (3) 業務提案評価は、審査委員会が業務提案の書類審査、業務提案プレゼンテーション及びヒアリングの内容により審査を行う。
- (4) 客観評価、業務提案評価及び価格評価の評価点は、次のとおりとする。

第1次審査

評価項目	評価配点	備考
客観評価	60点	
業務提案評価	200点	40点×審査委員5名
価格評価	20点	
合計	280点	

第2次審査

評価項目	評価配点	備考
業務提案評価	250点	50点×審査委員5名
合計	250点	

- (5) 筑後市は、参加資格審査を第1次審査により行い、客観評価の評価点の合計が6割以上で、評価点の合計が上位3者程度を第1次審査通過者とする。また、客観評価が6割未満の場合は、第1次審査の業務提案（書類審査）は、審査をしない。
- (6) 審査委員会は、第1次審査通過者の中で、第1次審査における価格評価と第2次審査における業務提案評価の合計点（第1次審査の客観評価及び業務提案評価を除く）が最も高い者を業務受託候補者に、次に高い者を次点受託候補者に選考する。

評価項目	評価配点	備考
価格評価（第1次審査）	20点	
業務提案評価（第2次審査）	250点	50点×審査委員5名
合計	270点	

ただし、業務提案評価（第2次審査）の評価点の合計が、満点の6割に満たさない場合は、受託候補者として認めないものとする。

3 評価基準

(1) 第1次審査（客観評価）

ア 客観評価

客観評価における審査内容及び、配点基準の詳細は以下のとおりとする。

審査項目及び配点基準の明細

評価項目		評価基準		配点		
客観評価	ア 参加者の評価	①実績	実績の種類、件数について評価する。 次の順で評価する。 ①議場付の実績 ②ZEBの実績 ③①②以外の庁舎実績	6		
			小計	6		
	イ 各業務担当者の資格	専門分野の技術者資格	各担当分野について、資格（取得後1年以上のものに限る。）の内容により評価する。	管理技術者	2	
				主任担当者	建築（総合）	2
					構造	1
					電気設備	2
					機械設備	2
	小計	9				
	ウ 各業務担当者の業務実績	実績（実績の有無、件数及び携わった立場）	次の順で評価する。 ①議場付の実績 ②ZEBの実績 ③①②以外の庁舎実績 その際に携わった立場により評価する。	管理技術者	9	
				主任担当者	建築（総合）	9
					構造	9
					電気設備	9
					機械設備	9
	小計	45				
	合計				60	

①参加者の業務実績評価（様式第2-1号）【6.0点】

参加者の業務実績について評価を行う。業務実績は、筑後市庁舎建設基本・実施設計業務プロポーザル実施要項（以下「本要項」という。）「第3 募集要項、3 参加資格要件、（7）」の実績件数（最大3件）を1件当たり基礎配点2.0点として、区分係数等の係数を乗じた合計点数により評価する。

実績件数と基礎配点

最大件数	基礎配点
3	2.0

実績と区分係数

実績	区分係数
議場付及びZEBの実績	1.0
議場付の実績	0.9
ZEBの実績	0.9
その他の実績	0.7

評価点の計算は次表のとおりとする。

基礎配点A	区分係数B		評価点A×B	合計
1件当たり基礎配点 2.0	議場付及びZEB の実績	1.0	1件当たり最大評価点2.0 (3件で6.0)	6.0
	議場付の実績	0.9		
	ZEBの実績	0.9		
	その他の実績	0.7		

②管理技術者及び各主任技術者の資格（様式第3号）【9.0点】

管理技術者及び各主任技術者の資格（初回登録後1年以上のものに限る。）について、次表の資格評価表により評価する。（【基礎点分5.0点】＋【加算点分4.0点】最高9.0点）

担当業務分野	評価する技術者資格		評価点	注記
管理技術者	基礎点	一級建築士	1.0	
	加算点	一級建築施工管理技士	1.0	※1
建築（総合）	基礎点	一級建築士	1.0	
	加算点	一級建築施工管理技士	1.0	※1
構造	基礎点	構造設計一級建築士	1.0	
	加算点	-	-	
電気設備	基礎点	設備設計一級建築士又は建築設備士	1.0	
	加算点	第一種又は第二種 第三種電気主任技術者 一級又は二級電気工事施工管理技士 一級又は二級管工事施工管理技士	1.0	※1
機械設備	基礎点	設備設計一級建築士又は建築設備士	1.0	
	加算点	第一種又は第二種 第三種電気主任技術者 一級又は二級電気工事施工管理技士 一級又は二級管工事施工管理技士	1.0	※1

※1 加算対象となる資格については、1つの資格のみが選択できる。

③管理技術者及び各主任技術者の業務実績（様式第3号）【45.0点】

業務実績（実績の有無及び件数）について評価を行う。本要項「第3 募集要項、3 参加資格要件、（7）」の実績件数（最大3件）を1件当たり基礎配点3.0点として区分係数を乗じた合計点数により評価する。

実績件数と基礎配点

担当業務分野	最大件数	基礎配点
管理技術者及び 主任技術者	3	3.0

実績と区分係数

実績	区分係数
議場付及びZEBの実績	1.0
議場付の実績	0.9
ZEBの実績	0.9
その他の実績	0.7

評価点の計算は次表のとおりとなる。

担当 業務分野	基礎配点 A	区分係数 B		評価点 A×B	合計
管理 技術者	3.0 (最大件数3)	議場付及び Z E Bの実績	1.0	最大評価点3.0 (3件で9.0)	45.0
		議場付の実績	0.9		
		Z E Bの実績	0.9		
		その他の実績	0.7		
建築 (総合)	3.0 (最大件数3)	議場付及び Z E Bの実績	1.0	最大評価点3.0 (3件で9.0)	
		議場付の実績	0.9		
		Z E Bの実績	0.9		
		その他の実績	0.7		
構造	3.0 (最大件数3)	議場付及び Z E Bの実績	1.0	最大評価点3.0 (3件で9.0)	
		議場付の実績	0.9		
		Z E Bの実績	0.9		
		その他の実績	0.7		
電気設備	3.0 (最大件数3)	議場付及び Z E Bの実績	1.0	最大評価点3.0 (3件で9.0)	
		議場付の実績	0.9		
		Z E Bの実績	0.9		
		その他の実績	0.7		
機械設備	3.0 (最大件数3)	議場付及び Z E Bの実績	1.0	最大評価点3.0 (3件で9.0)	
		議場付の実績	0.9		
		Z E Bの実績	0.9		
		その他の実績	0.7		

イ 業務提案評価（書類審査）

提出された業務提案書は、提案者番号を付した後、付属資料を添えて各審査員へ事前に配布する。その際、提案者名を伏した状態とする。

評価点は、各委員40点満点とし、評価項目及び評価点の配点は、次のとおりとする。

評価項目		配点／審査委員		評価点（審査委員5名）
業務実施方針と体制、工程表		10点		50点
テーマ別提案	テーマ①	10点	30点	150点
	テーマ②	10点		
	テーマ③	10点		
参考見積書				20点
計		40点		220点

ウ 業務提案評価方法

- ① 業務提案書は、本要項に基づいて審査委員会が評価する。
- ② 評価項目及び評価基準、配点は、次のとおりとする。

評価項目		判断基準	判断基準ごとの評価	
業務実施方針と体制、工程表		妥当性、実現性、的確性	特に優れている	10
			優れている	8
			普通	6
			やや劣る	4
			劣る	2
テーマ別提案	テーマ①	テーマの理解度 テーマに対する提案の 的確性、独創性、実現性など	特に優れている	10
			優れている	8
			普通	6
			やや劣る	4
			劣る	2
	テーマ②	テーマ①を同様の判断基準	特に優れている	10
			優れている	8
			普通	6
			やや劣る	4
			劣る	2
	テーマ③	テーマ①を同様の判断基準	特に優れている	10
			優れている	8
			普通	6
			やや劣る	4
			劣る	2

エ 価格評価

提案者の中で、最低参考見積金額を提出した者の評価点を20点とし、その他の提案者の評価点Aは、次の算式で算出する。ただし、全提案者の参考見積額の平均値から50%以上乖離している場合は、0点とする。なお、評価点は、小数点第一位を切り捨てる。

$$\text{【算定式】 } (\text{最低参考見積金額} / \text{当該提案者見積額}) \times 20 = A$$

(2) 第2次審査

ア 業務提案評価

評価点は各委員50点満点とし、評価項目及び評価点の配点は次のとおりとする。

評価項目		配点／審査委員		評価点（審査委員5名）
業務実施方針と体制、工程表		10点		50点
テーマ別提案	テーマ①	10点	30点	150点
	テーマ②	10点		
	テーマ③	10点		
ヒアリング内容		10点		50点
計		50点		250点

イ 業務提案評価方法

- ① 業務提案は提案者の名前を伏せた上で、その内容についてプレゼンテーション及びヒアリングの結果を含め、本要項に基づいて審査委員会が評価する。
 ② 採点は、プレゼンテーション及びヒアリング終了後、各審査員が次の基準に基づき評価する。

評価項目		判断基準	判断基準ごとの評価	
業務実施方針と体制、工程表の妥当性、実現性、的確性		①業務を実施する上での方向性や課題把握の的確性 ②類似する業務実績による経験と知識の的確性 ③配慮すべき事項に対応できる工程の妥当性と実現性	特に優れている	10
			優れている	8
			普通	6
			やや劣る	4
			劣る	2
テーマの理解度 テーマに対する提案の的確性、独創性、実現性など	テーマ①	設定したテーマごとの提案に対して ①テーマを理解しているか（理解度） ②課題把握が的確か（的確性） ③新たな取組やアイデアであるか（独創性） ④提案内容に説得力があり実現可能な内容か（実現性） ⑤スケジュール・コストに配慮した提案内容となっているか（品質）	特に優れている	10
			優れている	8
			普通	6
			やや劣る	4
			劣る	2
	テーマ②	テーマ①と同様の判断基準	特に優れている	10
			優れている	8
			普通	6
			やや劣る	4
			劣る	2
	テーマ③	テーマ①と同様の判断基準	特に優れている	10
			優れている	8
			普通	6
			やや劣る	4
			劣る	2
ヒアリング	取組み意欲	①プレゼンテーション内容、ヒアリング対応での取組み姿勢、意欲が伺えるか	特に優れている	10
			優れている	8
			普通	6
			やや劣る	4
			劣る	2

以上